

118

特218

390

版新

天理教祭文集



始



緒言

祭文は何のかざりもなしに、神様に真心を以て申上げる言葉で御座ます、諸先生方の原稿を戴き新版發行致したる書にして祝詞を祭文に改めました

附録として祝辞、答辞、吊祭文を掲載致した

一片を示せるものに過ぎません、茲に編者はこの書を祭文の新工夫の手引草になるために諸彦に捧ぐ

編者誌



新版 天理教 祭文集 目次

御本部春季大祭	全	一
秋季大祭	全	五
教祖殿大祭	全	八
秋季靈祭	全	十
元旦祭	全	十一
全	全	十二
紀元節祝日	全	十三
春季大祭	全	十五
秋季大祭	全	十六
月並祭	全	十七
全	全	十九
婦人會例會	全	二十
青年會	全	二十五
全	全	三十九
全	全	四十三

御分靈奉遷奉告祭	全	三十六
全 鎮座祭	全	三十七
祖先の靈を改祭	全	三十九
改祭奉告祭	全	四十
佛壇を取除時の祭文	全	四十一
神柵を取除くる祭文	全	四十二
遠祖祭	全	四十三
全	全	四十四
集談所開筵式祭文	全	四十六
講社月並祭	全	四十七
全	全	四十九
入社祭	全	五十一
全	全	五十三
靈祭	全	五十五
全	全	五十七
婚姻式	全	五十八
結婚式誓祭文	全	五十九
立教百年祭	全	六十
全	全	六十一
全 御教祖殿祭	全	六十四

新版 天理教祭文集

御本部春季大祭文

大和の地場のかみがたと仰せ給ひしこれの眞座の  
 中央に御鎮り下さいます親神天理王命の御前に眞  
 柱中山正善慎んで申上げます親神様は涯なき御慈  
 悲と深い思召を以て紋形なき所から我々人間を  
 御創造り下され子供の陽氣暮しを御樂しみに長の  
 年月様々の御仕込により漸く一人立ちして今日の  
 成人の道を通らせて戴く様になりましたこの御慈  
 愛は夢寢の間も忘れる事なく日々月々御禮申上げ  
 只管御心に副ひ奉る様懸命に勤めさせて戴いて居

御教祖五十年祭々々文	六十五
明治天皇祭	六十八
天長節祝日	七十二 誤
奉告祭祝辞	六十九 誤
婦人会總會祝辞	七十二
青年會總會祝辞	七十三
祝 辞	七十四
全 全	七十五
全 全	七十六
全 全	七十七
全 全	七十九
吊 答	八十
告 告	八十二
諭 告	八十三
全 全	八十五
全 全	八十六
全 全	八十七
全 全	八十七
全 全	八十九
全 全	九十二
全 全	九十三
出征軍人歡送祝辭	
朝夕祈願文祝詞	
國威宣揚出征軍人健康祈願祭祝詞	

二  
りますすが今日の吉日は春の大祭を仕へ奉る日の一  
日柄で御座ぬますので只今から勤め人衆の人々打  
揃ひ甘露臺勤め陽氣手躍りを勤めさして戴き親里  
に群れ集ふ親神様の可愛子供と共に心から御禮申  
上げたいと存じます別けても今年に神の屋代にお  
定め下された教祖様の五十年祭をつとめさせて戴  
く年限に相当致しますので今日から舊正月二十六  
日に當る二月十八日迄の間五十年祭をつとめさせ  
て戴かうと存じます何事も見抜見通しの親神様は  
己に御照覽の事と存じます教祖様の五十年祭を  
奉仕させて戴く爲に役員の人々とも談し合ひ何く

れごなく準備を進めて参りましたが御守護により  
萬事手落なく出来上りましたので今日の正月の御  
大祭に第一回の祭典をつとめさせて戴きます又年  
祭期間中毎日神樂勤めも鳴物も一切御教へ下され  
ました様にならつて陽氣に勤めさせて戴き親神様  
に御喜び戴くと共に五十年前を偲ばせて戴きたい  
と存じます何卒御心平かに御受納下されませう様御  
願ひ申上げます私共の成人至らぬ所から長らく思  
召のまゝを姿に現はす事もなし得ず誠に恐れ多い  
次第で御座ぬました子供可愛一條と仰せ下され  
た御言葉にあまえてぬた事をお見許し下されお

ればせながら毎日勤めをさせて戴きます子供すかたの姿  
を御覽下さいませ勤め人数は云ふ迄もなく教祖五  
十年祭の日を待て内地は云ふに及ばず遠き海外よ  
り或は又吹雪の中を物ごもせず親里を慕ふて参り  
ます澤山の子供等も同じ心で毎日づこめを勤めさ  
せて戴き相共に陽氣いさみの心に浸りたいと存じ  
ます定めて至らぬ届かぬ點も御座ぬませうがたゞ  
く私共の真心のみを御受取り下されまして事な  
く祭事を終らせて戴くやう御願ひ申上げます  
又私共始め一同の者教祖五十年祭を道の轉換の節  
と考へ尙も神一條助け一條勤め一條の上うみに邁進し

て懸命の働きをさせて戴き度と堅い決心を以て御  
誓ひ申上げますこの状をも御覽下さいまして道の  
上に大きな芽をふかせて戴く様一同に代つて慎ん  
で御願ひ申上げます

御本部秋季大祭文

眞座の眞中に御鎮り下さいます親神天理王命の御  
前に眞柱中山正善慎んで申上げます天保九年のこ  
の月の今日は親神様が約束の年限を御待ち兼ねに  
なり教祖様を神の屋代とお定めになつて萬づいさ  
いの元の因縁をとさ明かしための御教へをお立て  
下された元一日の日で御座ぬます私共はこの一日

六  
の日の到来により親神様が紋形なき所から我々人間をおつくり下され長の年月の御仕込みご廣き厚き御守護の數々によつて漸く成人の道を通らしめて戴いた事を聞かせて戴いたのであります  
それより九十八年目に目に見えぬ前の前まで仰せ下された親神様の思召しは次から次へとあらわれ今では神名を稱へて親里を御慕ひ申します子供の數も七百萬八百萬とかぞへきれぬやうに榮へて参りましたこの廣大なる御思召の程は一日片時も忘れる暇なく朝夕御禮申上げて居ります  
元一日の理を紀念するがため秋の大祭を執り行ひ

七  
勤め人衆の人々打揃ひ鳴物に心の調子を合せて陽氣神樂の勤めを勤行し親神様の御心をお慰め申上げようと存じます御前に捧げる物ごては御酒御食の外別に珍らしい品も御座いませんが私共を始め遠い所を厭はず歸へつて参りました子供等がお屋敷の内外に満ち溢れる心から喜び勇んで感激の眞情を捧げて居ります  
も申上げる如く現つ神様としてこの世を御治め下さいます皇が御代を末代かわらぬやう御守護下され世界の子女にも家にも病み患ひのなきやう不時の災難にあはぬやう御恵み下さると共に授け人

中の人々がわき目を振らず働かして戴いて居りま  
す心のきりなしふしんは尙も御力添へ下さいまし  
て陽氣暮しの世の立替へを一日も早く御あらはし  
下さる様一同に代つて慎んで御願ひ申上げます

御本部教祖殿祭文

扉開いて今尙存命のま、御働き下さいます教祖様  
の御前に眞柱中山正善慎んで申上げます今日から  
舊正月二十六日に相當する二月十八日迄の間を教  
祖様五十年祭の日と定め只今第一回の祭典を執り  
行ひ親神様の御教下されました型通りの陽氣づこ  
めを事なくつとめをさせて戴きました定めし教祖

様も御覽下されました事と存じます只今奉仕者一  
同打揃ひ御前で御禮御挨拶を申上げますこれまで  
度々教祖様の年祭をつとめさして戴きましたたがそ  
の度毎に心のふしんの機會をお與へ下されますの  
で私共はこれを道の上の一つの節と覺り心をひき  
締めて助け一條に勤め一條にはたらかせて戴きま  
した今年の五十年祭は年限の上から考へましても  
世上の理から眺めましても大きな節と覺らせて戴  
きますので私共は云ふ迄もなくお授け人衆の人々  
に至るまで彌が上にも心を一つにして親神様の思  
召を實現させて戴きたいと かたい決心の程を申



上げてお誓ひさせて戴きます何卒節から芽が出る  
お言葉通り御守護を見せて下さるやう一同に代つ  
て謹んで御願ひ申上げます

御本部秋季靈祭々文

この靈舎にお鎮り下さいます御先祖を始め前の眞  
柱本席又故の本員部國々所々の教會長數々の教師  
及び信徒等諸の御前に眞柱中山正善慎んで申上げ  
ます靈等が御生前人々に笑はれられ譏れつゝも助け  
一條の道の上にお働き下されお盡し下された御功  
績は今更舉げて數へるまでも御座いません別けて  
も細道のかゝりより教祖様をお助け申して共々に

難儀苦勞の中を御通り下された方々の道すがらは  
私共のひながたごして生涯踏ませて戴くべきかど  
くで御座ぬますお道が今日のやうに大還道とな  
り榮えてまいりましたのは親神様の御守護と教祖  
様のお徳のあらわれによるは申すまでもありませ  
んが又靈等が御身も忘れて只一筋に道の上に御奉  
公下された功績にもよるものと只管御禮申上げて  
居るので御座ぬます尙年々春と秋には靈の御祭  
りを御仕へ申して方々の御働きを思ひて御心を御  
慰め申上げる定めに従ひ只今より今年の秋の御祭  
りをつとめさして戴きます どうか種々の捧物を

相當に聞き食されて今も行く先もお道の上にお力  
添へ下されまして私共の足らぬ所をお導き下さる  
ご共に靈等の家族の人々の榮えを御守り下さいま  
す様一同に代つて慎んで御願ひ申上げます

元旦祭々文 一

此の神床に鎮座まします宇宙萬有の創主天理王命  
の御前に 何某謹みて申上げます親神様のた  
へまなきいや厚き御恵みに依りまして昨年一歳の  
間日々陽氣暮しをさせて戴き今日初日の朝日の輝  
きと共に亦一歳を迎へさして戴きました事は謹み  
て御禮申上げます

元旦祭々文 其二

新年を迎へさして戴き年の始の御祭を仕へさして  
戴き天津日嗣の我皇室の御繁榮と根の國日本の隆  
昌並に枝先の國々この交際も日月に深く厚くなら  
む事をお祈り申上げますと共に天理の眞教の彌榮  
と教信徒一同助け一條に益々勇躍奮闘精進を年頭  
にお誓ひ申上げる事を受取り下さいまして本年も益  
々めづらしき御守護をお垂れ下さいます様謹むで  
お願ひ申上げます

元旦祭々文 其三

この神床に鎮ります元なる親神天理王命の御前に

何某謹むて年の始めの御挨拶を申し上げます親神様の  
の絶え間なき御供恩を賜りまして昨年一歳の間日  
々に楽しい陽氣暮しをさせて戴き今日の初日出の  
輝きと共に又新たに一歳を加へさせて戴きました  
事を心から御禮申し上げます新しい年を迎へ元旦の  
良き日に方り我皇室の御繁榮と根の國日本の彌榮  
ふ並に諸々外國との交りの益々親密ならむ事を御  
祈り申上げると共に我教の教徒信徒等が新年に際  
し一段と新しい精進を加へて世界一列の心が澄み、  
きる日の一日も早く實現する様助一條の上勤め  
させて戴く覺悟を決めました事を御受取り下さい

まして益々めづらしい御守護を下さいます様に一  
同に代つて謹むて御願ひ申し上げます

紀元節祭文

宇宙萬有の創主元の親神天理王命の御前に  
謹みて申し上げます

今日の佳日は肇國の主神武天皇陛下大和國橿原の  
宮に始めて御位に即かせ給ひし紀元を祝ひ奉つり  
給ふ朝廷の御式に效ひ申して親神様の御前に御祭  
典をさして戴かうと種々の物を御供申しました状  
を御受取り下され皇國の御代をいつまでも榮へ皇  
室の御繁榮は天地と共に永久に廣く高く日の本の

御光を益々世界の隅々まで輝き渡らせ下されます  
様教信徒一同と共に謹みて御願ひ申上げます

春季大祭々文 其一

天地にありとあらゆるもの、創主ご仰ぎ奉る天理  
王命の大前に 何某慎んで申上げます

親神様の廣大無邊の御鴻恩は朝夕深く御禮申上げ  
て居る次第に御座ぬます本月は教祖親様子供可愛  
一條にて一日も早く往還道を通させたい御慈悲か  
ら明治二十年正月二十六日扉を開いて世界を六字  
にふみならずと仰せ給ふて現身をお隠し下された  
月に相當致しますので當教會に於きましても春の

御祭を勤めさして戴き無量の御恩寵を深く拜謝し  
御昇天を俥ばせて戴き十二下りの手踊りを奉仕さ  
せて戴き度いと存じます尙朝夕御願ひ申上げて居  
ります皇室の御繁榮邦家の隆昌は申すまでもなく  
御恩報じとして働かして戴く助一條の上に御守護  
をお垂れ下さいますして親神様の御用も充分果さし  
て戴きます様お導きの程を一同に代り偏へに御願  
ひ申上ます

春季大祭々文 其二

此の教會の神床にお鎮まり下さいます天理王命の  
御前に天理教何某謹みて申上げます親神様の絶大

なる御恵によりまして私共は日々助け一條の上  
に働かして戴きますのは誠に有がたい事と謹んで厚  
く御禮申上げます今日は我が  
大御祭で御座ぬますのでこの目出度い日をお祝ひ  
申し親神様にお勇み願ひ度う存じますので皆の者  
打揃ひ只今より陽氣手踊りを勤めさして戴きます  
どうぞ親神様にもこの心を御受け取り下さいまし  
て皇室の御繁榮國家の隆盛は申すに及ばず世界の  
一列子供等の身にも家にも煩はしき事のない様お  
守り下さいまして陽氣暮しの世界が一日も早く實  
現致します様御守護をお願い申上げますと共に當

始め先々に至りますまで日々  
御恩報じの心から互ひに手を引き合ひ心を結び合  
せて一條に働かさして戴く助け一條の上にも尙不  
思議な御守護をお垂れ下さいましてそれぐ助け  
場所としての使命を果し親神様の御用も充分果さ  
せて戴き地場の理に對へ奉る様お導きの程一同に  
成り代つて偏に御願ひ申上げます

秋季大祭々々文

宇宙萬有の創主天理王命の御前に天理教  
部屬教信徒一同に代り何某慎んで申上げ  
ます申上るも畏き事に御座ぬますが天保九年十月

二十六日親神様が心の成人を思召し旬刻限を合圖  
 さして此の世界最終の御教をお建て下され夫れよ  
 り道は年と共に立榮へ我が日の本は申す迄もなく  
 外國までに延びお待兼下さる一列子供も成人も日  
 に月に進まして戴き別けても當教會は教勢年と共に  
 に進展の道をたどらして戴き教徒の數も日に増  
 し殖へて参りました事は偏へに親神様の御蔭と朝  
 夕御禮申上げて居りますことりわけ本月は親神様が  
 教祖親様に天降り下さいますた紀念の月で御座ぬ  
 ますので只今より秋の大祭の陽氣手踊勤めを奉仕  
 させて戴きます尙御前に喜び勇み御神名を奉唱し

て真心からお願い申し上げます我皇室の御繁榮寶祚  
の無窮の根の國日本の隆盛は申す迄もなく一列の  
人間の上に日夜御守護をお垂れ下さいまして天理  
の眞教を世界の隅々まで御宣布下さいます様參拜  
者一同に代り只管御願ひ申し上げます

秋季大祭々々文 其二

之れの神床にお鎮まり下さいます親神様の御前に  
天理教何某慎みて申上げます親神様の深き御思召  
により紋形なき所から無い世界無い人間を御創造  
下さいまして此方永き年限絶ゑ間なき御守護の下



に斯くも成人させて戴きました其大御恵みの程は  
 片時も忘れる暇なく常に御恩報じの途をのみ思ひ  
 念じて朝夕御禮申上げて居る次第で御座ぬます  
 殊に此月は秋の大御祭に相当致しますので今日の  
 此日を選んで秋の大御祭を執り行はさせて戴き親  
 神様の御心を御安め申上げること共に世界一列の  
 心澄みさる様只今より勇んで十二下りの陽氣手踊  
 勤めをさせて戴きます尙御前には親神様の御徳を  
 慕ひ歸つて参りました子供等の眞實を御受取下さ  
 いまして朝夕御願ひ申上げて居りますの室皇の御

繁榮國家の隆盛は申す迄もなく可愛い子供と仰せ  
 下さいました一列人間の上にも日夜御守護をお垂  
 れ下さいますと共に授け人衆の人々が御恩報じの  
 心から取掛らせて戴き勇ましくも働き續けて居る  
 助け一條の上不思議な御加護を垂れさせられや  
 がて心の普請の完成にお導きの程一同に成り代つ  
 て謹んで御願ひ申上げます

月並祭々文

此れの神床に坐して世を幸へ人を恵み給ふ天理王  
 命の御前に 慎みて申上げます  
 親神様の涯なき御慈悲と深い思召の御靈徳の妙用

に依りまして日夜陽氣暮しをさせて戴き居ります  
事は朝夕御禮を申上げて居る次第に御座ぬます就

きまして本日は當の月並祭  
の佳日で御座いますので部屬教信徒一同が揃ひま

して鳴物の調子に心を合し陽氣手踊を奉仕させて  
戴きます私等は常に皇室の御盛運を祈り皇國の隆

昌を祈つて日本建國の理想たる世界指導の大使命  
世界一列救済の上にも助一條一條に邁進して精忠

奉公の精神を以て互ひ立合助合ふ天理の使命を遂  
行さして戴き居ります何卒此の微心を御汲取り下

さいまして吾が根の國日本國威を八紘に照し世

界の隅々迄日本精神即ち天理精神の實現を下さい  
ますと共に我が教の益々盛大になると共に教信徒  
の上にお導き下されまます様一同に代りお願い申上げ  
成にお導き下されまます様一同に代りお願い申上げ  
ます

月並祭々文 其二

宇宙萬有の元の親神天理王命の御前に天理教

何某謹みて申上げます

親神様の限りなき御慈愛と深き御恵によりまして  
日々を結構に陽気な心を持って通らして戴いて居  
ります事は之れ一偏に親神様の御恵と拜謝致し朝

夕御禮を申上げてゐる次第で御座ぬます就きまし  
 て本日は當の月に一度の月並  
 祭の佳き日に御座ぬますので元一日の理をお慕ひ  
 して歸つて参りました教信徒一同も共に陽氣勤め  
 を奉仕させて戴きます私等常に皇國の御繁榮國運  
 の進展を祈り人類更生の上之日之寄進を旨として  
 助け一條に勵んで居ります何卒この微哀をお汲取  
 下さいますして根の國日本の國威を世界の隅まで顯  
 揚下さいますと共に吾が神ながらの道を世界一列  
 人類の上に布道下され一日も早く甘露臺建設の御  
 實現下さいます様謹みてお願い申し上げます

月並祭々祭文 其二

之れの神床に御鎮り下さいます天理王命の御前に  
 天理教何某謹むて申上げます親神様の深き厚き思  
 召により紋形なき所から無い世界無い人間を御創  
 造下さいまして此方永き年限絶間なき御守護の下  
 に斯くも成人させて戴きました其御惠の程は片時  
 も忘れる暇なく常に御恩報じの途をのみ思ひ念じ  
 て朝夕御禮申上げて居る次第で御座ぬます月の  
 日は月毎の御祭日と定めて今日此日にこれの  
 月並の御祭を執り行はさして戴き親神様の大  
 御心を御安め申上げると共に世界一列の心澄みき

る様只今より勇んで陽氣手踊りをさせて戴きます  
 尙親神様の御高德をお慕ひ申上げて御前に歸つて  
 参りました子供等の眞實を御受取下さいまして朝  
 夕御願ひ申上げて居ります皇室の御繁榮國家の隆  
 盛は申す迄もなく可愛子供と仰せ下さいました一  
 列人間のの上にも日夜此の上の御守護を加へられま  
 すと共に授け人衆の人々が御恩報じの心から勇ま  
 しくも働き續けさせて戴いて居る助一條の上の不  
 思議なる御加護を垂れさせられやがて心の普請を  
 完成するやうお導き下さいます様一同に成り代つ  
 て謹むで御願ひ申上げます

婦人會例會祭文

宇宙萬有の大源とし坐ます天理王命の御前に天理  
教婦人會 謹みて申上げます

親神様の廣大無限なる御加護に依り御教祖親様の  
雛型の道を目的として婦人會を御創立下され心の  
磨き合の道をお開き下されましてその會員の一員  
にお加へ戴き居ります事は心から喜ばして戴き居  
ります次第に御座ぬます本日は婦人會例會を勤め  
させて戴き親神様の御加護を仰ぎ教祖親様の垂訓  
に基き婦人は臺としての赤誠を振り起し國恩報恩  
の上に畢生の御奉公をさせて戴く決心に御座ぬま

す何卒此の眞心を御受納下されまして皇室の御繁  
榮皇國の隆盛は素より我が會員の數は日に月に増  
し日本婦人の模範とならせて戴き本會員の責任を  
完ふさして戴く上にお導き下されますと共に御守  
護の程を會員一同に代りお願い申上げます

婦人會祭文 其二

此れの神床に御鎮り下さいます天理王命の大前に  
何某謹みて申上げます此世は元泥海でありまして  
何一物もなかつた其中に月日親神様が現れまして  
八柱のお道具衆の神様をお集めに成りまして世界  
を創造人間を拵へて陽氣暮しをさせてお樂しみ下

さる御思召で御相談有て世界や人間を御創造下さ  
れたのであると聞せて戴いて居ります其時より今  
日に到る迄少しの間断もなく御守護下されて私共  
人間は廣き厚き深き大きい御恩を戴き日々かうし  
て結構に暮さして戴いて居るのでありますして思へ  
ば思ふほど感激の極みでありますして何共御禮の申  
上げ様は御座ぬません殊にお道の婦人會員として  
戴いた事は誠に有難い事さ心から喜ばして戴いて  
居ります婦人會は元々親神様の深きお思召に  
より尊き御刻限のお言葉を戴きまして創まりました  
たのでそのお言葉の中に婦人は臺であると仰せ下

さいました事は尊き深き理のお言葉で御座るまし  
 て婦人として尊く重く嬉しく感激に堪へません私  
 共會員は飽迄一手一つの真心を結び合せてお思召  
 に添ひ奉る様御奉公さして戴く決心で御座ります  
 から此真心を御受取り下さいます我皇室の御繁  
 榮國家の隆盛は彌益根の國元の國の光は世界に輝  
 き渡ります事は申上げるに不及我が婦人會員の數  
 は日に月に増し世界の上にも道の上にも家庭にも  
 臺として優しき低き心で愛情の誠を盡し世の人々  
 の模範とならせて戴きつよき信念を益々養ひてお  
 助け一條の上には男子にも劣らぬ働きをさして戴



き御教祖の御理想即ち立教の大義の宣揚に片時も  
油断なく働かして戴き婦人會員の責任を全ふし以  
て世界一列親神様の御守護を感謝して陽氣暮しの  
樂しきこゝはこのよのごくらくやと仰せ下さいま  
した日を一日も早く御守護下さいます様一同に代  
りて御願ひ申上げます

青年會例會祭文

此れの神床に鎮座下されます天理王命の御前に  
謹みて申上げます

親神様の絶大なる御思召に依り本教の羽翼ごして  
青年會の御創立を下され道の荒木棟梁たる使命の

素に神意の達成に邁進させて戴き居ります事は心  
 から御禮申上げます取分け本日は青年會例會の御  
 勤めを奉仕させて戴き益々一手一つの心を以て不  
 撓不屈のひのきしん精心に立脚して心霊の開拓に  
 躍進させて戴きます何卒常に祈り奉る皇室の御繁  
 榮國家の隆盛は申すまでもなく本會の責務を遂行  
 さして戴きます様御守護を賜らん事を會員一同を  
 代表して謹みて願ひ申上げます

青年會祭文 其二

此れの神床に御鎮り下さいます天理王命の大前に  
 何某 謹みて申上げます 元ない世界無い人間

を御創造め下さいます今日に到るまで秒間  
 も休みなく自由自在靈妙極りなき御守護下さい  
 ます廣き厚き深き遠き大なる御恩は何共申上げる  
 辞も御座るません感激に堪へん次第で御座ぬます  
 尚ほ天保九年に御教祖の御身体を神の社として天  
 降り下さいますして世界最後の眞實御助け一條の御  
 道をお立て下さいますして身上事情に行詰て居る私  
 共を御助下さいますして日々勇んで暮さして戴ける  
 様に格別なる御守護を蒙り尚ほ其上にも御道の荒  
 き棟梁として働かして戴くべき青年會員たる事は  
 辱なき極みで御座ぬます私共會員は一手一つの眞

心を以て御奉公さして戴く堅き決心で御座ぬます  
から此真心をお受取り下さいます世界の根の國  
元の國を統治す我皇室の御繁榮國家の隆盛は彌  
益し下萬民は忠實に御鴻恩に報ゆる誠を盡し我大  
日本精神を普く世界に發揚し一列兄弟の實を擧る  
は申上げるに不申我會員の數は日に月に増して荒  
き棟梁として強き信念の下に御教祖の御理想即ち  
立教の大義の宣揚に邁進努力さして戴き本會任務  
の遂行に遺憾なきを期せしむる様御守護下さいま  
す様一同に代りて只管御願ひ申上げます

御分靈奉遷奉告祭文

此の教會の神床にお鎮り下さいます天理王命の御前に

出のまゝに今日親神様の御分靈を

に奉遷させて戴きます是より私共御供仕へ申しま

す道すがら安穩にお遷り下さいます御鎮座下さ

います様謹みて御願ひ申上げます

御分靈鎮座祭々文

宇宙萬有の創主と仰ぎ奉る天理王命の御前に

親神様の深き厚き御思召と御恩寵と御教祖様の無

謹みて申上げます

三十七

盡の靈護に依り今度  
 入信し今日の佳き日を定めて私共御供仕へて今親  
 神様の御分靈を此の家の神床に遷し鎮めさせて戴  
 きます御前に御酒御饌種々の物を御供へさせて戴  
 きました何卒おうけ下さいまして此の神床に永久  
 に御鎮り下されて親族家族諸々の人の上に病氣災  
 難等の事なく平和の光輝き只一筋に天理の教を守  
 り家の業務は益々盛大にならして戴きます様御守  
 護をお垂れ下さいまして月々の月並祭も勤めさせ  
 て戴き道の子としての本務を完ふする上に御導き  
 の程を家内一同に代りてお願い申し上げます

祖先の靈を改祭々文

此の家の遠き代々の御靈様の御前に天理教  
 何某慎みて申し上げます  
 此の家は古より佛式で御靈様をお祭りし又お吊ひ  
 をして参りましたが我が國は神の御國に御座ぬま  
 すので今日よりその道に入り神道の式に改めてお  
 祭りをさして戴きますどうぞ御承知下さいまして  
 御心靜かに御靈代に遷りお鎮り下さいませます様謹み  
 てお願い申し上げます

改祭奉告祭々文

此の家の御先祖様方の御前に天理教

日の本は皇祖の御代より萬ての儀式は神式にて行はれてまゐり中古より外國風を習ひ今日に至りました。が本日より昔に立ち返り天理の親神様の恩頼を仰ぎ御教の則に従ひ今回御先祖様方の御祭の式も改めさして戴かうと存じ只今御奉告申上げます。何卒御心穩かに御承知下されまして今より後遠く永しく此の家の御守神と坐して親族家族一同をお守り下されまます様願ひ申上げます。

佛壇を取り除く時の祭文

此處の小床に坐します御佛様の御前に天理教

古來よりこの家をお守りお恵み下されました廣大な御功績は朝夕謹みて御禮申上げて居ります。就きまして本日より我が國の本道である神の道を行ふ。ことごと成りましたので今日某寺に御佛様の御像をお納め申上げますことを御承知下されませ。今御前に種々の物を御供へさして戴き謹みて申上げます。

神棚を取除くる祭文

此の家の守神として御守護をお垂れ下さいました。諸神の御前に天理教何某謹みて申上げます。神様の朝な夕なにお守り下されました御恵の程は

厚く御禮を申上げる次第で御座ぬます今度宇宙の  
創主天理王命をお祭り申して今より後は諸神をも  
その中にお納めして禮拜させて戴きますことを御  
承知下さいまして御心安くお聞き取り下され今御前  
に種々お供へさして戴き謹みて申上げます

遠祖祭々文 (毎月)

此の家内をお守り下されて日々に家業も榮へさし  
祭を勤めさして戴かうと存じまして色々の御供へ  
をさして戴きましたどうぞお召上り下さいまして  
て申上げます今日例月の通り御先祖様の慰霊の御  
之の小床にお鎮り下さいます御先祖様方々に謹み  
て戴きます様一同に代り

何 某 謹みてお願い申上げます

遠祖祭々文 其二

この靈屋にお鎮り下さいます何某及びこの家に  
ゆかりある多くの靈様の御前に親族家族一同に代  
つて何某謹んで申上げますこの家に屬する多くの  
人達が今日それぐ家の業に日々いそしみ働かし  
て戴いて居ます事は天理王命の御供恩の賜である  
事は元より申す迄もない事ではありますが一  
には靈ごなられました皆様か御存命中我身どうな  
つても御精進で只一筋に私共を御導き下された

御遺徳に依る事と常々感謝は致して居ります今日  
は毎年の例として何日は靈祭日であります故多く  
の人達が御前に集ひ心からなる御供物を致しまし  
たのを御召上り下さいますと共に私共の成人を御  
覽下さいまして御満足して戴き度いご念じて居る  
ので御座ぬます何卒これから先永い道すがらに過  
ちなく益々家の光の輝き渡ります様御導き下さい  
ます事を謹んで御願ひ申上げます

集談所開筵式祭文

此の宮居の眞中に鎮まります元の親神天理王命の  
御前に天理教 何某 謹んで申上げます

親神様の廣き厚く日夜絶へ間なき御守護に依りま  
して入信以來段々成人の道に進まして戴きました  
事は鴻大無邊なる御恵に依るものと日夜お禮申上  
げて居る次第に御座ぬます就きまして當家主  
事斯道の時旬の理に深く感ずる處あり  
此の度集談所を開き御教祖様の雛型の道を通らし  
て戴く可く本日の佳き日より只管助け一條に乗り  
出さして戴かうとして心ばかりの御供をさせて戴  
き奉告の御勤をさして戴きます何卒この眞心を御  
汲取り下されました精進さして戴きます助け一條  
の上不思議なる御守護をお垂れ下されまして時



旬の働きに充分なる理を御積し下さいますして心の  
普請を一日も早く完成させて戴き家族の者が側ら  
勤めます家業の益々発展の上にお導き下され御加  
護を賜ん事をお願ひ申上げると共に布教紀念のお  
祭を奉告さして戴きます

講社月並祭々文

之れの小床にお鎮り下さいます天理王命の御前に  
天理教何某 謹みて申上げます  
親神様の涯なき御守護の理により世の中は開け人  
の道は進み陽氣づくめに暮す子供の數も日増に殖  
えて参ります事は忝ない事と日夜御禮を申上げて

居る次第に御座ぬます就きましたして本日は此の家の  
月に一度の月並祭で御座りますので家内一同が揃  
ひまして親神様の御前に心ばかりのお供をさせて  
戴き喜び勇み御祭典を勤めさして戴き日頃の御高  
恩を感謝し尙も御守護にお縋り申上げますを御受  
取り下さいますして今も行先も皇室の御繁榮國家の  
隆昌は申す迄もなく一列の人々の上に御守護をお  
垂れ下され別けても此の家の家業を日増に立ち榮  
ゆべくお導き下さいますと共に充分なる徳をお積  
せ下さいます様御禮ご願ひ申上げます

講社月並祭々文 其二

これの神床に御鎮り下さいます天理王命の御前に  
天理教何某謹むて申上げます親神様の深き厚い思  
召により無い世界無い人間を御創造下さいまして  
より永の年限絶間なき御守護の下に斯くも成人さ  
せて戴きました大御恵の程は片時も忘れる間さて  
は御座ぬませんので常に之が御恩報じの事のみ念  
じて朝夕御禮申上げて居る次第で御座ります今日  
は此の家の月並の御祭日と定め心ばかりの御祭典  
を執り行はさして戴き親神様の御心を御慰安申  
上げようとする種々の物を御供へして御仕へさせて戴  
く子供の心を御受下さいまして今も行先も皇室の

御繁榮國家の隆盛は申す迄もなく我教の道の彌榮  
と此家内の安穩に一層の御加護を御垂れ下さいま  
す様家内一同に成り代り謹むて御禮と御願ひ申上  
げます

入社祭々文

之れの教會の神床に鎮坐します天理王命の御前  
に親神様の深き厚きお思召とお手引きに依り教祖親  
様の御靈徳を仰ぎ此度は天理の教を  
信奉し入社祭を執行させて戴きます今日より身を  
修め家業丹精親孝心を旨として神恩皇恩國恩の千

一に報ひさして戴くお誓をさせて戴きます何卒新しき理の子供の上に御守護をお垂れ下さいまして道の子としての責務を完ふする様お導きの程を謹みてお願い申し上げます

入社祭々文 其二

これの神床に鎮ります天理王命の御前に 何某 謹むて申し上げます 親神様の深い恩召から元ない人間を御創造下され且日夜絶ゑ間ない御供恩を戴いてゐるその上に子供可愛い慈悲心から教祖様に神憑り下され五十年の雛形の道をお示し下さいました御恩は言葉に盡せぬ處でありますその深い厚

い御守護を戴きまして此度何某等は此教を奉ずる道の人ごならせて戴き一つには親孝心の御恩報じの日々を通させて戴き一つにはそれぐの天職にむかつてはれやかな美はしい働きをさせて戴き度くその御誓ひとしてこの御祭を勤めさせて戴く事となりました何卒新しい理の子供の上に此上ごもに珍らしい御守護を垂れさせられました成人の道へ御導き下さいます様に一同に代つて謹むて御願ひ申し上げます

靈祭々文 (春秋並用)

これの教會の祖靈殿に鎮り坐す諸々の靈様の御前

に天理教

何某

親族家族教信徒一同に代りて謹んで申し上げます  
 諸々の靈様には親神様の御思召と御教祖様の雛型  
 の道を遵奉し天理の大道に心をお盡し下されまし  
 たので道は年と共に立ち榮へ今や海外にまで擴ま  
 りて参りました事は天理王命の御高恩の賜である  
 事は元より申す迄もないところで御座ぬますが又一  
 面に靈となられました方々の御存命中助け一條只  
 一筋にお通り下さいました御遺徳による事と日々  
 感謝致して居ります次第に御座ぬます就きまして  
 本日は毎年勤めさして戴いて居ります靈祭日で御

座ぬますので心ばかりの御供物をさして戴きまし  
 た何卒私共のこの微心をお受け下さいまして御心  
 を安らかにして戴きたいと存じますとぞこれか  
 ら先も我が教を益々擴まらさせて戴きますと共に  
 教信徒の家にも身にもお守り下さいます様謹んで  
 お願い申し上げます

靈祭々文 (春秋並用) 其二

この祖靈殿に鎮り坐す 及びこれの教會に  
 ゆかりある多くの靈様の御前に何某親族家族教徒  
 信徒一同に代りて慎んで申し上げますこの教會並に  
 この教會に部屬する多くの人達が今日それく處

を後に助け一條に又は家の業に日々いそしむ働か  
して戴いて居ります事は天理王命の御供恩の賜で  
ある事は元より申す迄もない事ではあります  
一面には靈となられました方々が御存命中我身ど  
うなつても御精進で只一筋に私共を御導き下さ  
いました御遺徳に依る事と常々感謝は致して居り  
ますが取分今日は毎年の例としての靈祭日であり  
ます故多くの人達が御前に集ひ心からなる御供物  
を致しましたのを御召上り下さいますと共に私共  
の成人を御覽下さいまして御満足して戴き度いご  
念じて居るので御座ぬます何卒これから先永い道

すがらに過ちなく益々道の光り輝き渡ります様御  
導き下さいます事を謹むて御願ひ申上げます

婚姻式祭文

之れの神床に鎮り下されます天理王命の御前に天  
理教

は今度親神様の鴻大無邊なる御恵み

と深き御恩召しにより

日を選びまして只今より此の神に於て婚姻式

を執り行はせて戴きます親神様の御前には御酒御

饌種々の品を御供致し御願ひ申上げる状を御汲取

下さいまして夫婦の契りを松の翠の永久に吳竹の  
操正しく梅の花の雪の中に香しきが様に清く明る  
く正しき誠の心を持つて千代萬代も變らぬ如く入  
紐の同じ心に仲良く相護り我が教の道を守り夫婦  
の道を完ふし親神様の御思召に添はして戴きます  
れば何卒御慈悲を持ちまして御加護と御恩寵をお  
垂れ下さいます様慎みてお願い申し上げます

結婚式誓祭文

之れの神床に鎮り下さいます天理王命の御前に天  
理教 何某謹んで誓ひの言葉を申し上げます  
今度親神様の深きお思召によりこの尊き御神殿に

於て婚姻の式を執り行はせて戴き夫婦の契りを固  
めました事は偏に親神様の御慈悲と御靈徳に依る  
事と厚く御禮申上げます今より後は御教に背むく  
様な事なく夫婦の道に違ふ事なく清き明るき真心  
を以て通らして戴きますまた夫婦の間に如何なる  
困難な事が出来ましても足納の教を守り互に相扶  
け他心を持つ事なく永久にこの契りを諭へず一つ  
心になつて働き御國の爲又道の爲盡さして戴きま  
す事を謹みてお誓ひ申上げます

立教百年祭（神殿祭文）

萬づの物に恵を垂れ給ふ天理王命の御前に天理教

親神様には紋型なき所から吾々人類を御創造下され此の限りなきお恵と涯なき御慈悲により世界一列陽氣暮しの世とせんが爲深い思召を以て永の年月種々の御仕込を受け日々成人の道を通らして戴く様になりました事は片時も忘れる事なく朝夕御禮を申上げて居る次第に御座ります天保九年十月二十六日親神様が此の世界一列救済の爲年限の到来により表に御現れ下さいましてより昭和十二年が丁度百年目に相当致しますので御地場の御本部に於かせられましては去る十月立教

百年祭の大盛典を御執行下されましたお言葉の通り遠い處や高い處へ句をおかけ下さいました之の教會に於きましてもお地場の理にならまして戴き有志の方々を御招待申し佳き日を定めまして只今より御祭典を勤めさせて戴きます尚多くの教信徒と共に陽氣手踊りを奉仕させて戴くべく親神様の御前に御酒御饌種々の物をお供へ致しまして私共始め親の理を慕つて歸參致しまた教信徒一同の満ち溢れる心から喜び勇んで神命を奉唱してお慕ひ申上げる眞情を御汲取り下さいます常々朝夕お願ひ申上げております天津日嗣

の大八洲國を御統治下さいます天皇の御盛運ご皇  
國大日本帝國の隆昌は申上る迄もなく一列の人間  
の上には日夜御守護をお垂れ下さいまして吾が神な  
がらの道を世界の隅々までお擴め下さいまして共  
に日本建國の理想たる世界指導の大使命遂行の上  
に御加護をお垂れ下さいます様又所屬せる授け人  
衆が益々く一手一つの心を以て神恩國恩奉謝の上  
ひのきしん精神に立脚し百年たてば往還の道との  
御神言に従つて日夜助け一條に邁進させて戴きま  
す何卒遺憾なき働きご充分なる理をお積し下さ  
ん事を一同ご共に謹みてお願い申上げます

立教百年祭（神殿祭文）其二

之れの神床にお鎮り下さいます天理王命の御前に  
天理教何某謹んで申上げます天保九年十月二十六  
日は親神様が御約束の年限の満ち到るのを待ち  
下さいましたして教祖様を神の屋代とお定めになりて  
萬づ悉細の元の因縁を説き明しための教をお立て  
下された元一日の日で御座ぬます私共は此一日の  
日の到來により親神様が紋型ない所から吾々人間  
をお造り下され長の年限の御仕込ご廣き厚き御守  
護の數々により漸く成人の道を通らせて戴いた事  
を聞せて戴いたのであります夫より今日まで仰せ



六十二  
下さいました御言葉の通り親神様のお思召は次第  
に現れて不思議な珍らしき御助けを戴き喜び勇ん  
で御神名を唱へお慕ひ申し當教會へ参り集る子供  
の數も日に増し殖へ榮へて参りました此廣大なる  
御恩は片時も忘れる暇なく朝夕御禮申して居りま  
すがとりわけ今年は親神様が世界一列救助の爲め  
天降り下さいましてより丁度百年目に相當致しま  
すので御地場に於かせられても既に立教百年祭を  
御執行下さいましたが之の教會に於かれましても  
由緒ある今日をトして只今より御祭典を勤めさせ  
て戴き多くの教信徒等が寄り集ふて心からなる陽

六十三  
氣手踊りの勤めをさして戴き親神様へ御禮申上げ  
て御悦びを戴き度う存じます御前に捧げる物ごと  
は御酒御饌の外に珍らしき品も御座おませぬが私  
共始め國々所々より歸つて参りました子供の満ち  
溢れる心から喜び勇んで感激の眞心を捧げて居り  
ます状をお受取下さいまして朝な夕なにお願ひ申  
して居ります皇室の御繁榮國家の隆盛は申す迄も  
なく世界の子供等の身にも家にも病み煩ひ禍ひ事  
なく家業に丹精さして戴く様お恵み下さるご共に  
お授け人衆の人々が神一條に働かせて戴いており  
ます限なし普請には尙も御力添へ下さいまして教

祖様の御理想である眞實陽氣の世界即ち甘露臺の建設を一日も早く實現下さいます様一同に代つて慎んで御願ひ申上げます

立教百年祭（御教祖殿祭文）

之れの神床の眞中に鎮り扉開いて御守護をお垂れ下さます我が教の祖と崇め奉る眞道彌廣言知女命の御前に天理教 何某謹んで申上げます 御教祖様には人類の親神様の御命のまに天保九年十月二十六日より五十年の永い歲月雛型の道を御通り下され数々の御言葉やお筆先を通じて御教示下されました御高恩は瞬時にも忘れる事なく朝

夕御禮申上げて居りますが取分昭和十二年で親神様が世界一列救済のため天降り下さいましてより丁度百年の年限に相当致しますので御地場に於かせられては大祝盛典を御執行下さいましたが道の理に連がる當に於きましても本日吉口をトしてその御祭典を勤めさせて戴きます定めし至らぬ所届かぬ点も御座いませうが今日以後尙ひたすら家をも身をも忘れ助け一條に雄々しく邁進させて戴くことをお誓ひ申上げます

御教祖五十年祭々々文

之れの宮居の眞中に鎮り坐す我教の祖と崇め奉る

眞道彌廣言知女命の御前に天理教  
 何某謹ん  
 で申上げます 親神様の深い思召から元ない世  
 界や人間をお創り下され尙其上心の成人を思召し  
 天保九年十月二十六日の旬刻限を合圖として御教  
 祖様に神憑り下さいして以來五十年の永い間多く  
 の子供達の爲に萬人助けの難形の道を御通り下さ  
 れ且一日も早く往還道を通させたい御慈悲から二  
 十五年の御壽命を御縮め下され明治二十年正月御  
 昇天遊ばされました本年は丁度五十年目に相當致  
 しますので先頃御本部に於かれましては五拾年祭  
 を御執行下さいましたが之の教會に於きましても

由緒ある本日をとしてその年祭を勤めさせて戴き  
 多くの教信徒等が寄り集ふて心からなる陽氣手踊  
 りを勤めさせて戴き御教祖様に御禮を申上げるご  
 共に御悦び戴き度いと存じます御教祖様御存命中  
 御聞せ下されました数々の御言葉やお筆先を通じ  
 て御書き記し下さいました思召の程は今更に身に  
 泌みて有難く感謝させて戴くので御座ります唯助  
 け一條の實蹟に就きましたは御教祖様の思召に副  
 ない數々の節がある事を自責致して居りますので  
 今日以後尙ひたすらに家をも身をも忘れて雄々し  
 く世界助けに乘出さうとして居ります授け人衆の

眞實をお汲み取り下さいまして心の成人への道すがらには益々珍しい御守護を給はります様一同に代つて謹んで御願ひ申上げます

明治天皇祭々文

天理王命の御前に何某謹みて申上げます今日はおそれおほき先の明治天皇の御祭の日に御座ぬますれば之の教會に於きまして伏見桃山御陵を遙に拜み奉り我が親神の大前に御祭の式仕へ奉るとして種々御供へ申しました状をおうけ下されまして天皇の大御心を受け繼あそばして國土を御統治下されまます天子様の御代をいつく返もお守り下され

まして我が教の教師信徒は申す迄もなく國內安穩人民安樂に日夜お守り下さいます様謹みて御願ひ申上げます

天長節祝日祭文

萬有を主宰し給ふ天理王命の御前に天理教何某慎みて申上げます今日の佳き日は國土を統治下され神統を繼承し給へる御神裔天皇陛下の御生坐給ひし貴き吉日に御座ぬまして九重の朝廷を始め國內悉津々浦々の果までも祝ひ奉るが故我親神の大前に祝賀の御祭仕へ奉りまして種々の物を御供へ申し御願ひ申上げる状を御受け下さいまして大内山

の松の縁の色濃きが如く五十鈴の川の水の流れ  
 盡せぬが如く益々遠く益々長く御稜威は天のあら  
 ん限り地のあらん限りいつくまでもお守り下さ  
 れます様教信徒一同と共に謹みて御願ひ申上げま  
 す

七十

六十九頁を七十二頁に 七十二頁を六十九頁に 頁を誤植につき訂正致します

新天理教祭文集附録

奉告祭祝辞

本日(ほんじつ)の佳辰(かしてん)をトシ奉告(ほうこ)祭(さい)を舉行(きやうぎん)せらるゝに當(あた)り余(よ)此(こ)の末席(まつせき)を汚(おご)して盛儀(せいぎ)に參列(さんれつ)するの光榮(こうえい)に浴(よく)し而(しか)も一言(いちげん)の祝辞(しゆじ)を陳(ちん)ぶるを得(え)たるは余(よ)の欣幸(きんきやう)に堪(た)へざる所(ところ)なり想(せむ)ふに當(とう)は創立(くりつりつ)日(ひ)尙淺(なほあさま)きに而(しか)も今日(こんにち)の盛典(せいてん)を見(み)るに至(いた)りしは之(これ)即(すなは)ち元(もと)より神明(しんめい)無量(むりやう)の恩寵(おんちゆう)と御教祖(ごけうそ)の無盡(むじん)の靈護(れいご)に依(よ)るものと雖(いへど)も又(また)以(もつ)て所長(じやう)及(およ)び役員(やくいん)諸子(しよし)の日頃(ひごろ)熱盛(ねつせい)なる信念(しんねん)を保(たも)ち御教祖(ごけうそ)の御意(ごい)志(し)に基(もと)き一身(いつしん)一家(いっか)を捧(たす)げ助(たす)け一條(いちじやう)の爲(ため)躍進(やくしん)せられ且(かつ)又(また)信徒(しんねん)諸子(しよし)の熱心(ねつしん)の如何(いかん)に深厚(しんこう)なる力(ちから)を表(ひょう)す

示(し)するものと言(い)ふべし然(しか)れども天理(てんり)の聖道(せいどう)は無窮(むきゆう)にして一列救濟(いつれつきゆうさい)の大業(だいぎやう)亦爾後(ちご)洋々(やうやう)乎(こ)して其(そ)の涯(はて)しを知らず冀(こひねが)くば諸子(しよし)よ諸子(しよし)の聰明(ちゆうめい)よく斯(か)くも甚大(ぜんだい)なる神澤(しんたく)に判(せ)じことなく尙悟(なほさと)られ一層(いちじやう)御奮闘(ごふんとう)あられん事(こと)を冀(こひねが)ふ聊(いささ)か所感(しょかん)を述(の)べて以(もつ)て祝辞(しゆじ)となす

婦人會總會祝辞

茲(こゝ)に本日(ほんじつ)をトシ天理(てんり)教婦人會(けふじんくわい)を開(ひら)かるに當(あた)り其(そ)の末席(まつせき)に列(れつ)するを得(え)るは不肖(ふせう)の深く感喜(かんき)に堪(た)へざる所(ところ)なり願(ねが)はるに本會(ほんくわい)は神意(しんい)の隨任(ずいにん)創立(くりつりつ)以來(いらい)克(よく)く御神意(ごしんい)の遺訓(いこん)を遵奉(そんぽう)し會長閣下(くわいちやう)の御指導(ごしどう)を辱(かたじけな)しく本日(ほんじつ)の盛大(せいだい)なる總會(そうかい)を見(み)るを得(え)たるは眞(まこと)に慶賀(けいが)に

堪へず願くば是の勢を以て赤誠を振起し凝りて一  
團となり御教祖の雛型の道を違へず一入御勉勵の  
程希望して止まず一言以て祝辞とす

青年會祝辞

天理の神光は宇宙に遍在する真理にして人生行路  
の靈的玉糧なり而してそれを躬踐の俎上に啓明し  
現世に甘露臺を樹立せしめるは吾人教徒の天與の  
大任なり神はその趣意を完美せしめんが爲吾人の  
頭上に青年會を下し給ふその意や遠くして且深し  
と觀るべし想ふに人類更生運動の先鋒は青年會に  
俟つもの一反多し苟もその籍を會員に置くものこ

の旬を逸する事なく神恩惠澤の下に教祖年來の積  
恩に報はれん事を吾人は其將來を祝福すると共に  
大なる期待を寄せんとす冀くば諸子斷乎として天  
與の大道に邁進を望む聊か祝意を贈る幸にこれを  
餐げよ

祝辞

本日天理教 青年會發會式を行はせられ  
るに當りましてその末席を汚がし婦人會を代表し  
て一言お祝を述べさして戴く事を得ましたのは此  
上ない光榮とする所でございます今更申す迄もご  
さいませんが天地陰陽の理は本教教理の眼目で御

座ぬまして即ち天地相依つて世界をなし夫婦相和して完全なる家庭をつくるのでござぬます今之を青年會婦人會と云ふ上に付て考えさして戴きますと神様のお仕事をさして戴く事はどうしても兩會が相提携して一心同体の理を遂行せねばなりません茲に於て青年會の發會式を大いに祝福しいやが上にも榮えまさん事を希望して止まない次第で御座るます一言以て本日の祝辞と致します

祝 辞

今世界人類は思想の混沌時代に直面し外を見るに一觸即發世界大戰の危機を誘發し内には非常時を

叫び宗教の興隆を促せり之れ明朗日本建設精神報國の大願に教家奮勵の秋なり此の時に當り天理教青年會は教祖の垂訓に則り混沌たる思想界の燈臺となり同胞救済の使命を全ふせん事を標榜して起てり實に壯絶の擧と言ふべし不肖 役員を代表し茲に満腔の熱情を以て本會の健全なる發達を祈ると共に會員諸子が特有の潑刺たる元氣を鼓舞し勇奮邁進以て本教の眞價を發揮し速に斯會の所期を貫徹せられん事を切望して止まず聊か燕辞を陳じて本日の盛典を祝す

祝 辞



満目縁樹碧空に起たんとする好季をトし天理教青年會に當り余末席に列するを得たるは欣喜に堪えざる所なりそも  
 青年は社會活動の源泉にして本教の右翼を以て之を任じ先鋒をもつて之を負ふの勇士なり世道は雜草生ひ茂り人心は塵埃にまみれ晦々として天地爲に昏と云ふべし世界を六地にふみならし世を天理王命の名によりて立直さんてふ神業に奉公する本會々員の責務や重且大なりと云ふべし今や教外世人天理の教へに注目する此の機に際し冀くば益責務の大なるを思ひ神の荒木棟梁たる使命を遂

行し皇恩報國に對せられん事を一言以て祝辞となす

諭告

本日茲に天理教青年會發會式を擧げらるゝに監むを得たるは余の欣快措く能はざる所なり此機に際し一言會員諸氏に告げむとす想ふに本教は神明の加護と教祖の靈徳に因り立教以來遼原に放たれたる猛火の如き勢を以て日本靈界を風靡し今や海外に向つて猛進しつゝあり是時に當り會員諸氏は益々信念を砥勵し神意の實現に力を致さるべからざるは勿論本會をして益々牢固不拔の結

團たらしめ各自世道人心淨化の尺度たるの覺悟を  
持せざるべからず斯くてこそ内本教の礎石たり出  
でては本教伸張の先鋒たれてふ神諭の精神に合致  
するものご云ふを得べく是實に以て本會員たるも  
の、金枝玉條ごなす所なり克く夫れ心を立教の大  
本に溯り思を本會創立の趣旨に致し教祖遺蹤の大  
道に愧づるなきやを慮り益々本會の隆盛に資せら  
れむことを望む

告 辭

教祖神靈を宿して誕生し本教を開顯し給ひて百年  
教光日に輝き月に進み教線の進展誠に驚異に値す

吾青年會亦教勢と歩武を一にし創立以來日尙淺き  
にこの隆盛に會するは神明の御加護ご教祖の指導  
し給へるによるこれ本會員の衷心感謝せざるべか  
らざる處なり吾がも亦の發展に  
伴ひ會運漸次その熱と力を増し來れるは是まさ  
しく神明絶大の加護ごは申せの御指導宣  
しきと本會役員諸子の熱心と努力に依り會運の日  
に新たなる隆盛を見るは私の深く感謝する所なり  
然れども青年會創立の目的より考察すれば現時の  
會勢は未だその片鱗にすら及ばず驚天動地の活動  
は尙諸子の將來に期待せざるべからず従つて本會

が教祖立教の精神を體し本會創立の目的を達成す  
る爲諸子の責務たるや重且大なりと云ひつべし本  
日御多忙の砌の臨席を辱うし親しく  
我會に深甚なる諭告を賜ふこれ吾が會が取つて持  
つて準據すべき規範を示されたる靈言也冀くば  
本會に所屬する諸氏はの諭告を深く静か  
に思念し以て本會を益々盛んにし本會存在の意義  
を教の内外に發揚せよ以て告辞とす

答 辭

茲に本日を下し當發會式を舉行せらるゝに  
當り各位諸彦の御臨場を仰ぎ優渥なる

諭告を辱なふし懇篤なる告辞並に祝辭を賜りまし  
た事は當會永世の紀念にして又私等會員一同の感  
激措く能はざる處であります爾今神明の恩寵と御  
教祖の御靈徳に信頼し會員只管一致團結し本部の  
方針に順應して御訓諭の御趣旨を服膺し本會所期  
の目的の貫徹と當會の隆盛發達とに違算なき様全  
身全力を捧げて御奉公申上げる事をお誓ひ申し不  
肖會員一同を代表して茲に私共の所思を述べて以  
て謹んで御答へ申上げます

吊 辭

噫悲しきかな秋の空は晴れたれども我が心は晴れ

やらぬ雨風の中にこぼろぎの聲身にしみ断腸の思  
 ひあらしむる時先生には忽焉と逝かる噫悼しい哉  
 先生には夙に神教宣布の大道を敬仰せられ濟世救  
 人の爲日夜御奔走下されしに天に歸らる夢か非ら  
 ず幻か非らず逝く水の歸らぬ如く先生の姿再び  
 此の土に見ゆべくもあらずして山川徒らに哀愁に  
 咽ぶ夫れ人の生死は天命にして人事の及ぶ處に非  
 らずとは言へ先生の如き重鎮を失へるは誠に痛恨  
 の情断たんと欲して断つ能はず我々は先輩先  
 生の勇勢誠の意志を享け必ず實行致すべきを誓ふ  
 冀くば先生よ私等の爲めに永遠に靈護あれかし茲

に 代表して謹んで哀悼の意を表し奉る

吊詞

贈 霊の御前に 謹みて申上げ

ます には昨年 月頃より御身上であら  
 せられる様に承りて居りましたが一日も早く御守  
 護を受けられてすこやかならんことを朝夕親神様  
 にお願ひ申上げて居りましたが突然御逝去の飛報  
 に接しまして爲すべきも知らぬまでに驚轉致しま  
 した頬に落つる涙滂沱としてやまないの御座ぬ  
 ます御道は今は日本人更生の時旬白熱的活動の渦  
 中にありこの時に際し何某の出直しは當教會の大

なる損失と存じます然しながら是神様の深き御神慮による事でごさぬませうごうか幽界から吾等がお道を通らせて戴く將來に對して御指導下さいます様に茲にを代表致しましてお別れの言葉を申し上げます

吊 辞

あゝ悲しい極みです先生には私等を見捨て遊して海よりも深い山よりも高い御恩を御報いする邊もなく遂に呼べど歸らぬ遠い國へ旅立れましたした先生が常に御説き下され御諭し下さいましたあの暖かいお言葉は今尙耳に残つてぬます夏の暑

い日も美降りしきる冬の夜も先生には私等の爲に溢れる様な優しき心にて乳呑子に教へる様に御導き下さいましたあゝそれも今は夢となつてしまひました涙の種となつてしまひました(會者定離)の言葉を今日の前に味いて私等は斷腸よりも辛しい悲しみばかりが胸に迫ります思へば先生が常に御教へ下されました御旨を奉じ崖道も茨ぐるうも勇んで先生の御足跡を違ふ事なく通らして戴くやう草葉の蔭より御守り下さいませ今は最後の一言を申し上げます

吊 辞

維時昭和

年

月

日故

の靈前

維時昭和 年 月 日故 の靈前  
 に告ぐ は御性質として正義觀念強く然か  
 も決斷力に富み尙時によりては自己反省の心厚く  
 人に對しては慈悲寛大の徳を示し又仁夾の行爲實  
 にその特長とする處なり余は と親交を得  
 る事此處に 年餘良く其の人となりを知るあへて  
 人後に落ちざるなり然るに何たる事ぞ 年 月  
 頃より無常の風は病魔となりて心持常ならず醫藥  
 を盡し又一家の全力を楊げて我が親神に平癒の一日  
 も早からぬ事を祈願致し不肖も朝夕其の快方を衷  
 心より祈念致せり然して全快の曉は餘生を一意専

心世の爲道の爲靈教宣布に盡さん事を親神に誓ひ  
 居たりしが命數の盡くる所となりたりとは言へ今  
 は梅の香も臭がれず又松の響も聞かれず尙聲咳に  
 接する事を得ざるは何たる悲しみぞ勇しかりし  
 鐵道の旅路に引き換へ今日の柩の悲しさは然れど  
 も死は生の始めなりと聞く又早く絶大なる神明の  
 加護により現世に歸り來ません事を冀ふお別れに  
 際し一言撫辞を陳じて英靈を吊ふ靈よ尙くば是を  
 享けられよ

出征兵を送る祝辞

建國二千五百有餘年萬邦無比の皇室を戴く我大日

本帝國は國防の完備と權益の擁護を確立し東洋の  
平和と世界人類の福祉を求むるものなり現下皇國  
を繞る四圍の狀勢は國防的に或は國際的にも堅視  
安逸を貪るを許さず愈々極東の風雲は急にして事  
態寔に容易ならざるものあり特に蘇支兩國との間  
に在りし我帝國は一觸即發の禍機は既に爆發して  
一瞬の猶豫も許さず今ぞ我帝國は正義と自重を以  
て日支の親善と友誼を計りしも遂に支那は迷夢を醒  
めず益々我に抗し暴戾飽なきを致す因つて我は破邪顯正の劍を拂ひ東  
洋平和の再建を企つべきの秋は來れり然り而して  
此の迷妄なる支那を膺懲するの大使命と責務を負

ふるものは是國家干城たり柱石たる軍人の雙肩に  
待つもの多し然るに何某君は此の名譽あり光榮あ  
る大日本帝國の軍人として今日其本務を果すべく  
召集の大命を拜し聖戰の旅に監まんとす君は素よ  
り身體強健軍人精神の練磨飲くる處なく畏くも皇  
基發祥の靈地に生を享け至誠よく皇運を扶翼し事  
に蹉からざる大和民族として誇り得る勇士と信じ  
て己まざるなく畏多くも明治天皇の御製に『國ヲ思  
フ道ニ二ツハナカリケリ戰ノ庭ニ立ツモ立タヌモ』  
と仰せ給へる如く現時の戰鬪は舉國皆兵の時句に  
して外にあるも内にあるも國を護るに二つ無く朝

の門に勇士を送り夕べの空に敵機を迎へる時なり  
 我等は郷に在りて君と生死を共に銃後の護りを固  
 め或は君をして願後の憂なからしめん事を期して  
 己まざるなり大君の御盾となりて世界平和の建設  
 者たる我等の勇士血湧き肉躍り欣然として茲に謹  
 しんで君の壯途を送るに萬腔の感謝を捧げ以て日  
 本健兒の本務を完ふせられん事を冀ふ

年 月 日

何 某

朝夕祈願文

辞別きて白さく今度圖らずも支那事變起りて大御

命のまに〜出で立たせる海陸の軍人等諸を撫で  
 給ひ慈み給ひて病ましき事なく煩はしき事なく身  
 を護り務を援け給ひて皇大朝廷の御爲と大さ功を  
 立て芳ばしき名を顯はしめ給ひ皇大御國の大稜威  
 を彌赫しに照り輝かしめ給へご畏み畏みも白す

國威宣揚出征軍人健康祈願祭祝詞

掛巻も畏き天理王命と稱言竟奉る親神の宇豆の  
 御前に天理教 何某 畏み 畏みも 白さく  
 言卷は畏かれども現御神と天日嗣知食す天皇は常  
 に世界の平和を重し給ひ貴み給ひ別きても東洋  
 の國々安く穩に有經ん事をし深く遠く思ほし行は



すをこの日頃大皇國を侮り皇國民に對ひて無禮し  
き振舞なす國あらはれ盾つく行ひいや益々に募り  
行く狀を聞食して痛く憂たみ歎かひ給ひ官人をも  
ちて懇切に事謀らしめ給ふが中に頑固にも皇軍に  
敵なひ東洋の平和をさへ破るべき狀なるに我は尙  
も廣き深き大御心のまに情理つくしてかれて  
の協定に従ふべく種々に説き諭せざるの効だに  
なく反りて軍隊を進めて大御國に敵ふ狀のいやし  
るければ今は宥恕すべきにあらずと膺懲討ち伐む  
べく皇軍を進め給ひぬこゝをもて今日の生日の足  
日に御祭仕へ奉り御酒御饌種々のものを捧奉りて

清き赤き眞心もて一向に乞祈奉らくは我が皇大御  
軍を守り給ひて海原は軍艦安らくは國原は皇軍の  
隊平けく軍人等は身健けく心剛く彌勇みに勇み彌  
健びに健びて向ふ處靡かぬ方なく進む處平伏はぬ  
者なく速やけく敵ふ者を討ち罰め平ぎ却けて皇大  
朝廷の大稜威を彌赫しに赫かしめ給ひ皇大御國の  
大御光榮を彌足らに足はしめ給ひ夜の守り日の守  
りに守り幸へ給へさ畏み畏みも乞祈み奉らくと白  
す

昭和拾貳年拾月貳日 印刷  
昭和拾貳年拾月拾五日 發行

定價金 六錢  
郵稅金 六錢

奈良縣高市郡船倉村市尾六二九番地

編輯兼發行者 今井岩太郎

奈良縣高市郡船倉村市尾一二五〇番地

印刷所 今井印刷工場

印刷者 今井留次郎

奈良縣山邊郡丹波市町川原城

發行所 今井天誠堂

振替大阪六七九四六番

版權  
不許  
復製  
所有

終

11  
0